

「(仮称) 重点戦略」に関する各部会の主な意見

1 全般的な意見

- ・事務局のテーマイメージ※のタイトルが基本方針のようで、キャッチコピーが必要ではないか。
- ・「さいたまコミュニティ」、「さいたまスタイル」をキャッチコピーとするなど、さいたま市で暮らす面白さを出せると良い。
- ・事務局のテーマイメージには「さいたま市らしさ」が感じられない。
- ・さいたま市はどういうまちなのか、改めて考える必要がある。
- ・重点戦略に挙げたテーマについて、理想とする都市のイメージがあれば分かりやすい。
- ・市のキャッチフレーズ「のびのびシティさいたま市」の活用を検討したらどうか。
- ・強烈なさいたま市らしさがない場合、自分たちで「らしさ」をつくって磨いていけば良い。
- ・さいたま市らしさには疑問がある。普通で良いと思う。
- ・分野横断的なテーマとすることにあまりこだわらなくても良いのではないか。
- ・7つの分野の連携を意識すれば、事務局のテーマイメージ以外にも考えられるだろう。
- ・重点戦略には、現状認識から、課題や今後の取り組み、目指す姿などを具体的に盛り込めると良い。
- ・重点戦略の中で具体的なアクションを記載することも大事だが、そもそもの前提を市民等と共有する手段を持つておくことも大事である。
- ・キーワードとして、環境、健康、観光、コミュニティとすることも考えられる。

※事務局より各部会（第4回）に提示した「テーマイメージ」

- | | | |
|-----|---------------------|---------------------|
| 戦略1 | 人や企業が集まるまちをつくる | ←人口減少社会の到来 |
| 戦略2 | 高齢者が元気に活躍できるまちをつくる | ←急激な高齢化 |
| 戦略3 | 子どもが笑顔で健やかに育つまちをつくる | ←少子化 |
| 戦略4 | みんなで安全・安心なまちをつくる | ←コミュニティの希薄化、安全安心の確保 |
| 戦略5 | ・・・ | |

2 テーマ・キーワードごとの意見

●住み心地

- ・大東京圏における近郊都市という条件の中で、企業から選んでもらえるまちとなるには、住み心地の視点から、従業員の幸せを考える企業に来てもらうことが大事である。
- ・住み心地の良さをもっとアピールし、さいたま都民と言われる市民がリタイアして地域に戻ったときにも、住んでいて良かったと感じられるようにすると良い。
- ・選んでもらえるまちとなるには、住み心地の観点から重点戦略を考え、資源を優先的に配分すべきである。

●10区の良さ

- ・さいたま市の良さはいっぱいあって、これだというのが難しい。10区それぞれの良さがあって、その上で、改めて市の良さがあるのではないだろうか。

- ・各区の良さはもちろん強調して良いが、むしろ旧市の枠組みにこだわりすぎることで、郷土愛がマイナスに作用するようなことがあってはならない。

●都市構造

- ・農村と大都市が隣接している、オープンな交通と企業が集積していることから、東日本のグローバル拠点を実現できると思う。
- ・市外から見ると、東日本の玄関都市や都会と田園風景が融合したまちというイメージがあり、この点からさいたま市らしさを出すことも考えられる。
- ・都心としての浦和と大宮のブランドを生かして、さいたま市らしさを出せると面白い。
- ・東日本のハブ・シティとしての位置づけや、見沼の自然の位置づけも重要である。

●自然・環境

- ・将来都市像と比べると、「環境共生」や「低炭素」という言葉が抜けていると感じる。
- ・次世代のライフスタイルを見据え、EVやスマートハウスなどの取組を生かしたテーマを出したほうが良いのではないか。
- ・市のPRキャラクター「つなが竜ヌウ」から、見沼田圃など環境を大事にしていることなど、何かヒントを得られるかもしれない。
- ・環境や農業もテーマに掲げなければ、さいたま市らしさが出てこないのではないか。

●子育て

- ・子「育て」というからには、単なる預かりというニュアンスではなく、人の成長を促すという視点を忘れずに入れるべきだ。

●子育て－仕事

- ・子育て支援などが充実して、若い人が安心して働ける環境こそが「さいたま市らしさ」だと思うので、子育て支援に関する戦略を一番目に持ってくるべきと考える。
- ・子育て支援は、詰まるところ経済など活力ある社会づくりにつながるもので、弱者を支援するといったニュアンスではなく、もっと強いメッセージ性があってもよい。
- ・子どもを安心して産み育てながら仕事ができるように、保育園や認定こども園などを充実する視点は、今後7年間でも重要となる。
- ・女性の就業率が高い地域では出生率も高いというデータもあり、女性が働きやすい環境整備に力を入れるべきである。
- ・ワーキングマザーが必要とされる時代になったので、企業内保育所をつくる気運を盛り上げることも大事である。

●高齢者

- ・都心で働いていた方が定年で地域に戻ってくる。医療の問題もあり、やさしい都市であるべきで、高齢者に関する戦略は必要だ。
- ・平常時にも防災無線を使ってラジオ体操などできれば、高齢者の健康づくりにつながる。

●高齢者－子ども

- ・高齢者と子どもの戦略は一つにまとめて良いのではないか。
- ・「子ども」「高齢者」を対象とした戦略は割とよくあるように思うので、ぜひ、「誰もが」や「市民が」といった視点も入れていければと思う。

●障害者

- ・障害を持つ青年が、親に頼らず参画できる場づくりと、それを支える仕組みづくりが必要である。

●農業-就労

- ・農業の後継者不足が問題となっているが、遊休農地等の状況を把握して、高齢者や障害者をはじめとする市民の就労につなげることも考えられる。

●安全・安心

- ・テーマとして、防災拠点ということは外せない。

●地域-安全・安心

- ・これからはコミュニティデザインや地域のガバナンスが大事であるので、コミュニティを、戦略4の防災と合わせてテーマとするのが良いのかもしれない。
- ・少子高齢化の中で、安心して暮らせるよう、三世帯で暮らす仕組みを考えて、家族で協力できる体制をつくる必要がある。

●自転車-安全・安心

- ・平坦な土地なので自転車の保有台数が全国一であること、ツールドフランスの名を冠した自転車レースの開催といった、さいたま市らしさを強調した方が良い。単に自転車事故が多いというだけでは伝わりにくいので、高齢者が事故死者の半数を占めること、全国でも自転車事故数が多いことなどを明示した方が良い。

●産業・経済

- ・重点戦略のテーマを、産業・経済の面からも横串にして取組を検討する必要がある。

●観光

- ・産業面から観光をあえて戦略として打ち出すことも考えられる。
- ・市民が市内観光を楽しむ意味合いを加え、スポーツ産業なども含めるためには、観光に代わる言葉があると良い。

●(若者や男性等の)就労

- ・眠りに帰るまちではなくて、若者が市内で働けるまちが理想である。
- ・男性の短時間勤務、定年後の地域への参画など、行政、市民、事業者の三者がそろえば上手く進むことがあると思うので、地域の事業者にも一緒に考えてもらいたい。
- ・男性の短時間勤務が当たり前の社会となるように、政令指定都市としてどのように取り組むかを盛り込んでほしい。
- ・市が率先して短時間勤務や男性の育休取得などモデル的な取組を進めると良い。

●地域-施設

- ・防災訓練の時以外にも、学校施設の一部を自治会等に開放してもらえれば、子どもたちから活力をもらえるのではないか。
- ・地域の連携を生み出すという視点から、施設の複合化、統合化について記述できないか。